

会 員 各 位

2018年5月8日
静岡県地学会
会長；熊野善介

第55 総会・記念講演会のご案内

深緑の候、皆様には益々ご健勝でご活躍のことと存じます。毎々格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。さて、本会では第55回総会記念講演会を下記の通り開催いたします。

講師の菅原大助（すがわらだいすけ）氏は、東北大学大学院理学研究科で博士号（地球科学）を取得後、同大学博士研究員を経て、2016年1月1日付けでふじのくに地球環境史ミュージアムに准教授として着任されました。専門分野は地質学で、主に津波堆積物について研究をされ、現在は国内外各地の津波堆積物および津波による地形変化の数値シミュレーションに関する研究教育活動を精力的に推し進めておられます。この度の講演会では、「津波災害の実態と予測—東日本大震災から南海トラフ巨大地震へ」と題して、南海トラフ巨大地震に伴う津波災害や古地震・古津波の履歴などについて講演していただきます。

静岡県民にとって貴重な情報が得られると思いますので、この方面に関心をお持ちの方々をお誘いの上、多数ご来聴くださるようご案内申し上げます。

記

日 時： 2018年6月17日（日）13:00～15:00（受付；12:30～）
会 場： 静岡大学理学部 B202（〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836）（右図参照）
※ 公共交通機関をご利用の上、ご来場下さい。
入 場 料： 無 料

◆ 記念講演会（13:00～14:00）

講演題目： 津波災害の実態と予測—東日本大震災から南海トラフ巨大地震へ
演 者： 菅原大助（ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授）

東日本大震災を引き起こした2011年東北地方太平洋沖地震は、「想定外」「千年に一度」という言葉で、その規模や頻度が表現されてきました。マグニチュード9に達する地震の規模や、津波の高さ、浸水域の広がりや、地域の防災計画では考えられてこなかった規模であったのは確かです。ところが、ほぼ同規模の津波が約1100年前の平安時代に起こっていたことは、地質学的調査により大震災以前から知られていました。その知見が防災の実務にほとんど反映されていなかったことは、被害が拡大した要因の一つと言えるかもしれません。いわゆる南海トラフ巨大地震は、その教訓を踏まえて提唱された地震発生のシナリオです。同様の地震がこれまでに起こったとする明白な地質学的証拠は知られておらず、各地で調査が続いています。本講演では、東日本大震災の津波の実態を、写真や映像をまじえて紹介し、さらに、津波堆積物をはじめとする地質学的証拠が明らかにする過去の地震・津波と南海トラフ巨大地震の関連を解説します。

◆ 総 会（14:00～15:00）

- 2017年度活動報告・会計決算報告・監査報告の承諾
- 2018年度活動計画案・予算案、役員・委員案の審議、その他

事務局からのお知らせとお願い

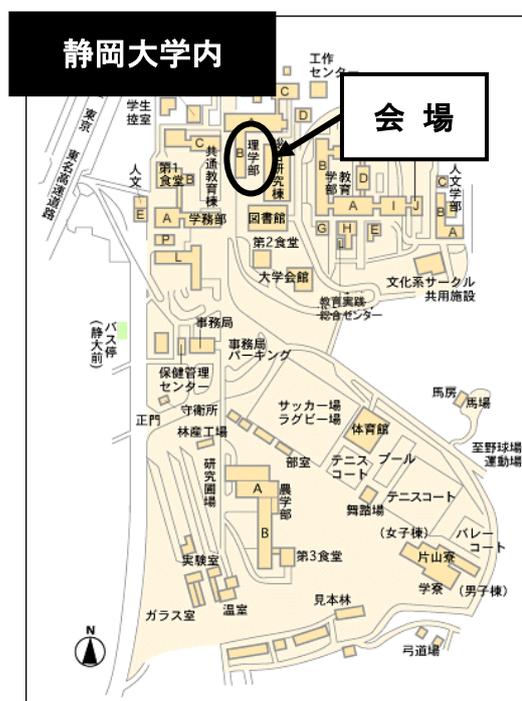
- **同封のハガキ**：会員名簿（住所（市町村合併による住所変更含む）・勤務先・電話番号・Eメールアドレスなど）の確認を行いますので、総会の出欠に拘らず必要事項をご記入の上、6月1日（金）までに必ずご投函ください。総会に欠席される方は委任状欄への署名・捺印もお願いします。
- **会費の納入**：本年度会費（+未納分）納入用振替用紙を同封しますので、会費の納入をお願いします。
- **会誌「静岡地学」**：第117号は総会当日発行の予定です。会誌第118号の原稿を募集しています。投稿締め切りは 2018年9月30日、「静岡地学」本部編集委員・佐藤慎一（E-mail: sato.shinichi.c@shizuoka.ac.jp）必着でお願いします。研究・報告、活動報告、地学散歩など、投稿規定（「静岡地学」第115号に掲載）を参考に奮ってご投稿ください。
- **第55回年会**：10月中旬にアースサイエンス・ウィークジャパンと合同開催する予定です。



＜JR 静岡駅北口からの乗車＞

JR 静岡駅北口バスターミナル8番乗り場から美和大谷線「静岡大学」行き又は美和大谷線（静岡大学経由）「東大谷」行きに乗車して、「静岡大学」又は「静大片山」で下車。美和大谷線（静岡大学を経由しないもの）「東大谷」行きに乗車した場合は、「片山」で下車。

（所要時間 25分、1時間に5～7本運行）



総会・記念講演会会場 案内図

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 静岡大学教育学部地学教室内 静岡県地学会事務局
E-mail: kusunoki.kenji@shizuoka.ac.jp
TEL&FAX: 054-238-4640
振替口座: 00180-5-41146